

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑩

カリキュラム・マネージャー

情報交換・交流が多様に展開

10月に入り「連携校の教育資源を活用した教育活動」にかかわる教職員間の情報交流が様々な形で行われました。

○中高養、ジョブスキルトレーニング(以下、JST)の概要を情報提供

15日（火）、更農の先生が中高養の先生から、JSTの概要について説明を受けました。更農は来年度、3年選択教科に「カルチベーション」を加える予定で、その指導内容を検討中です。

現行の学校設定教科・科目1年「カルチベーション」では、年間指導計画にSSTを位置付けていますが、その発展としてJSTの可能性を探っているとのことです。

「JSTの目的は、職場における基本的な対人マナー等について、グループワークの中で、視覚的な補助教材を使用し、発達障害者自身によるロールプレイや意見交換を行いながら、職場で必要となる対人コミュニケーションのスキルの習得を図ることです。」

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター職業センター「実践報告書 No31」より抜粋

○中高養の体育科授業を参観、意見交換

同日、更農の体育科と特別支援教育コーディネーターが5、6時間目の1年生のソフトボールの授業を参観し、その後、生徒の実態や授業内容等について情報交換しました。

○更農、数学の研究授業を公開

同日、更農では3年A組で数学の授業が公開され、中高養から3名の先生が参観しました。授業は、計算の苦手な生徒への配慮として「計算パズル」からはじまり、その後、「組み合わせ」を使って確率を求める問題が示されました。

数学科の先生は普段から「早く終わった生徒はできていない生徒に教える」ことを大切にしており、本時でも自然発生的に学び合う姿がみられました。

○更農で育てた「おもちゃかぼちゃ」

17日（木）更農から「おもちゃかぼちゃ」提供の申し出がありました。

「『おもちゃかぼちゃ』が大量にできたので、教育活動に生かせないかと思い声をかけました。」とのことです。更農の玄関では、かぼちゃオブジェが訪問する方々を出迎えています。



○更農メイクイン、中高養職員に人気

25日（金）朝、更農から10kg入りメイクインが50箱、中高養に搬入されました。

例年、村民等に販売しているじゃがいもを、中高養の先生方にも味わってもらいたいとの配慮です。育成、収穫、専用段ボール箱の組立て、選別、箱詰め等、すべて生徒の手によるものです。



※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。

第1回「共に学ぶ会」を実施

10月25日（金）10:55から、両校をオンラインで結び第1回「共に学ぶ会」が実施され、更農からは6名、中高養からはファシリテーターの先生を含め4名の先生が参加しました。



意見交換の様子（更農）

今回のテーマは「優先順位を無視しがちな生徒の理解と対応」で、優先順位とは何かを知り、自分で順位を決め、それに沿って行動できるまでとその際の指導者の対応等を、事例をもとに意見交換し理解を深めました。

通信「ふきのとう」更農へ継続的に提供

本年度から中高養の特別支援教育コーディネーターが発行している教職員向け通信「ふきのとう」が、バックナンバーも含め更農の先生方にも提供されるようになりました。

今後は、更農の先生方のニーズなどに考慮しつつ、これまで同様、中高養の先生方にとっても有意義な内容にしたいとのことです。同時に始まった「共に学ぶ会」の資料も、25日付「ふきのとう」の記事として提供されており、バックナンバーをたどることで必要な時に過去の研修内容を振り返ることができるようになっていきます。

ふきのとう

● 行動が成立するためのABC

A

優先順位とは何かを知っている

自分の都合に合わせる
他者に合わせる

※ 協性により難しい

B

自分で優先順位をつける

・期日を理解する
・やるべきことをやる
・他者に迷惑を掛けない

C

それをするためのメソッドがあるのかを理解している

・期日を守るができる
・他者から認められる

● 障がい特性（※）

障がい	特性
自閉スペクトラム症（ASD）	相手の理解が分からない、相手の気持ち分からない、強いこだわりがある など
注意欠如多動症（ADHD）	理解しているが不注意や衝動性により行動に移すことができない など
学習障がい（LD）	示された言葉の意味が分からない など

● 指導者ができること

項目	具体的な内容
手立て	・チェックリストを使って振り返る ・行動のルーティン化 ・できないことよりもできることに着目する
言葉掛け	・生徒と一緒に対策を考える ・ICTを活用する
指導者の覚悟	・本人がリズムをつかむまでのこめんと丁寧な指導・支援を繰り返し行う
指導者間の連携	・互いに声を掛け合う、教室をのぞく（困っているらサポート）
保護者との共通認識	・課題や成果を定期的に共有し合う

● 実態把握
障がいの診断の有無に関わらず、本人の特性（どんなことが難しいのか、得意なことは何か）を理解し、有効な手立てをとった上で指導が行えるように意識していきましょう！

【事例】ABCに当てはめて優先順位しよう！そして、何が出来るかを考えてみよう！

自閉的傾向があると診断されているAさん。理解力は高く学習面での問題は見られません。しかし、提出物を出すことができません。全体で出た宿題も出すことができず、声をかけてもおもしろくないという表情で黙っています。「明日は出します」と言うこともありますが、出すことはできません。家に帰ると家族が帰ってくるのが遅いため、すぐにゲームをしてしまいます。母親が帰ってくるまで夕食を食べゲームを続けます。11時を過ぎて入浴していないことに納得いかず、入ろうとしますがすでに入浴が終了したと判断した弟にお湯を抜かれており、怒りをコントロールできず弟を怒鳴りつけてしまう日もあります。次の日に反省し後悔することもあり、自分の行動を振り返ることはできています。

A（行動の先行事象）

明日から取り組む指導や手立て

B（行動）

C（行動の結果事象）

参考文献

3ステップで行動問題を解決するハンドブック
小・中学校で役立つ応用行動分析学
（大久保 賢一）
Gakken

● その他「スモールステップの目標設定」、「自力でできるヒントの共有」、「やりたくなるしかけづくり」、「問題の理由を探り出す」、「目標を設定する」、「作業を立てて実行に移す」、「ここでもできた！を褒める」、「チームで取り組む」ことなどについて書かれています。気になる方はCO 何冊までお声掛けください。

ちょこっとメモ
みなさんは授業準備に困ったとき、どんなことをヒントにしていますか？
工業科の菊地先生は熱心に教材研究を重ね、日々の授業準備をされています。分かりやすい表示や手順の示し方、使用する道具の配置などとても参考にしています。教育相談で来校した外部の方にとっても、学科をよく知るためのものとしており、工業科への理解が深まっています。みなさんぜひ、工業実習室を覗いてみてください！